

## 会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（10月定例会）会議録
開催日時	平成28年10月17日（月）14時00分から15時55分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：内田議長、木下副議長、岩崎委員、川崎委員、須永委員、沼本委員、服部委員、原委員、原田委員、森田委員、矢野(真)委員、小林委員 事務局：岡本課長、神田係長、桂主事、奥住主事
議題	(1) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について (2) 今後の活動について (3) その他
配布資料	○「学びの循環」とは 他（2016年4月号・7月号『社会教育』より抜粋）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>●平成28年9月の定例会議の会議録について訂正の後、承認する。 P5、児童青少年課、子育て支援課を子育て支援部児童青少年課に訂正</p> <p>(1) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について</p> <p>●議長より、平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について確認。事務局より補足説明。</p> <p>○議長：前回会議にて確定したスケジュールと役割分担について、改めて事務局に整えてもらった。最終版として再度内容の確認をお願いする。また、発表者から当日に使用するパワーポイントのレジюмеも提出されたので、当日の参考として配付する。</p>	

○事務局：概ね当日については資料のとおりである。当日使用するプロジェクター等は事前に事務局で準備しておく。

●事務局より、当日のスケジュールについて説明。

○議長：他に何か確認したいことはあるか。当日は役割分担のとおりをお願いする。

○委員：（異議なし）

## （２）今後の活動について

○議長：前回会議で配付された資料２から資料４と、本日配付された参考資料について、事務局から説明をお願いする。

●事務局より、前回会議資料：２「今後の教育環境の変化に対応した地域教育の推進方策について―地域教育プラットフォーム構想の新たな展開―」、３「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」、４「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」、今回会議資料：「『学びの循環』とは 他（2016年４月号・７月号『社会教育』より抜粋）」について説明。

○議長：何か意見はあるか。

○委員：前回会議資料２について話をしたい。平成18年12月に教育基本法で学校家庭及び地域との連携協力がうたわれ、平成20年には社会教育法でもうたわれた。地域プラットフォーム構想の基本となっている部分についてだが、現在、西東京市には市立小学校18校、中学校9校があり、学校ごとに仕組みが違う。現状の中で、教育委員会としてその仕組みをどのように評価しているのかを聞きたい。

○議長：他に意見はあるか。

○委員：コミュニティスクールというのは、杉並区でいう学校支援本部のような形だと思っているが、西東京市は学校運営連絡協議会が学校評価委員も兼ねているという認識でよろしいか。学校支援本部が確立しているところとは全く違う在り方だと思うが、西東京市内に学校支援本部を設置しているところはあるのか。

○事務局：現在西東京市内に学校支援本部を設置しているところはない。

○委員：各校にある学校運営連絡協議会や学校評価委員会が学校でいうコミュニティスクールの１つだとして捉えているだろうと私は解釈している。

○委員：現状という第1章がそこからスタートしている。前回資料２－P24の今後のあり方についてだが、東京都としてのデータなので、これが西東京市にあてはまるとは限らないが、これをベースにすると、どこまで進んでいるのかということと、アンケートをとって客観的なデータから言っているの、それを含めて、現状の確認をしてはどうかと思う。

○議長：資料は前回会議の資料か。

○委員：前回のものが分かりやすいと思う。これらの資料を見て、では、西東京市はどこを目指すのかというものがあっても良いと思った。現時点での状況を確認したい。学校がプラットフォームになると書いてあるが、こんなにも忙しい教員が、実際に可能なのか、現状に見合っているのか、西東京市の教員はどう思っ

ているのかも気になっている。

- 委員：現在、西東京市の教育委員会の中には、学校運営連絡協議会等については教育企画課、支援については教育支援課というところがある。このテキストには基本的な部分と、学校内と学校外に分けて書いてあるが、西東京市の場合は、教育企画課と教育支援課は別で動いているのではないかと考えている。教育委員会の中でも課が分かれているので若干問題はあのではないかと思う。
- 委員：子どもの教育に関しては、学校がプラットフォームになりなさいと書いてある。だから、このところに十分配慮する必要があると書いてあるが、現実的に考えて具体的にどうしようとしているのかが聞きたい。西東京市らしいソリューションがあれば良いのかなと思う。それには現状分析が必要であると思う。
- 議長：西東京市としても、各学校でそれぞれ団体や学校の職員、地域の住民をこういった図に表せるが、それがどう学校等を支援しているのかというところが大事だと思う。
- 委員：全員が統一するのが良いのかはまた別問題かもしれないが、今後について各学校でばらばらな考えを持っているように感じる。
- 委員：学校運営連絡協議会は年3回だけ招集される会議で、その中には地域で関係する人たちが集められ、学校からの説明を聞いて、それぞれ思うところを述べて、会議が終わる。学校施設開放運営協議会や育成会、地域住民懇談会等、どれも同じような方が参加しているように思う。例えばだが、杉並区ではこれら全てを学校支援本部が担っている。国や都からの話をうけて、西東京市としてはどうするのかについて、経済や人口などを踏まえた今後の見通しをもし教えてもらえるのであれば聞きたい。西東京市としてのビジョンがあるならば知りたい。継承していくことを考えても、どのような現状があって、どのようなサポートが必要かについても考えたい。
- 委員：プラットフォームの基本になっているのが、学校運営連絡協議会、学校評価委員会、これらを含めて現段階の仕組みの中で小学校18校と中学校9校でなされているものはどう評価されているかというところを起点に話を進めようと思っていた。
- 委員：小学校18校と中学校9校でそれぞれどうしているのか、盛んなところとそうでないところがあると思うが、その在りようについても知りたい。
- 委員：東小学校と明保中学校について1つの事例として話すと、基本的にこの2校は、毎年度学校としての基本計画を立てている。その年の教育目標やそれに従った事業についてなどを発表する。それに従って、学校評価委員会は評価することになっている。学校評価委員会は評価することが目的ではない。また、評価するといろいろな問題点があがるが、それらを地域や学校、保護者で連携し、噛み砕いて問題を整理し、翌年の基本計画に生かしていくべきであると思う。
- 委員：学校経営計画のようなものが毎年出る。これは学校長が異動しても継続性が見られる。かなり網羅的に書かれているが、なぜこの計画を立てたのかなど書かれていないことが多いように感じる。その部分を書いてもらわないと、ただマルバツを付けて評価することになってしまうのではないかと思う。特に区市町村との連携・支援などは背景があってこそ、各学校の経営計画が出るのかと思

う。正直、経営計画は網羅的過ぎるので、具体的にどうするのか、何をするのかまで書いたら良いと思う。

○委員：我々が評価に関して要求されているのは、先生が自己評価したものや、保護者からのアンケート等いろいろな材料はあるが、例えば読書については、子どもたちの読書の実態を、その先生の評価で正しく評価されているのかを確認することである。

○委員：変な評価をしていないかを評価してくれというものである。

○議長：外部評価というのは、教育目標に基づいて学校ではこうしているというものを元に、その結果子どもたちや保護者がどう感じているかや、アンケートの結果を踏まえて、教師はどのように教えたかについて評価し、その評価について外部評価委員はこの評価は妥当であるかなどと聞くことが役目であると思っている。西東京市として基本はあるだろうが、学校によって、学校長によって方法が全く違うので、それを踏まえたいうえで話をしたほうが良いと思う。

○事務局：現在、学校教育もいろいろな考えの中変わっていく。コミュニティスクールのような仕組みを持とうということで、いろいろな仕掛けが登場している。教育界全体がどのように動こうとしているのか、学校教育がどう変わっていくのかなど、いろいろな仕組みを持っていて、そこに社会教育の関係者も実際に関わっているので非常に体系的な話ができています。全体像を把握しつつ、社会教育委員の会議の中で西東京市の地域性を踏まえながら、これからどのような役割を果たすのか絞り込まなければならないと思う。今、学校教育に切り込んで、学校教育自体を理解してということになると、非常に大きい話になってしまう。西東京市で行っていることもいろいろあるが、学びの循環といった効果を上げるためにはもう少しポイントを見据えることが重要であると思う。社会教育面から、何を皆で取り組んでいくかを考えたら良いのではないかと思います。

○議長：やはり西東京市の学校支援、学校を取り巻く団体や組織がどうなっていて、どう支援するのかについて見えていないところがあるので、今後の活動として意味のあるものになると思う。

○委員：この1時間の議論の中で、基本活用についてが多かった。直接関係しているからというのと、評価委員などにはいろいろな意見があっても、どのように評価するための評価委員かというものがきちんと決まっておき、それに則って学校は運営しているので、それについて話し合うよりも、我々は社会教育委員なので、もっと大きな目で、今日の資料などを参考に、西東京市として何ができるのかなどを話し合うべきだと思う。ここに書いてあるようなものは今までこの会議で議論が尽くされていて、ただ実行に移せていないだけである。例えば1つは、こういう学びの循環の実現に向けてだと、どのような問題があるのかというと、結局リーダーが養成されていないという点であると思う。それぞれの社会教育委員がこのような学びの循環を実現させるためには、核となるリーダーを養成することが1番大事だと思う。リーダーを養成することが、我々の会の中での使命であるならば、どのようにすればリーダーが養成されるのかを考えるべきであると思う。それぞれのリーダーがきちんと養成されれば、今までに出たような問題はどんどん解消される。学校に特化するばかりでなく、我々の目指すところは、学びの循環の実現に向けたリーダー養成、例えば社会教育委員が主になって取り組むなど、そういう根本的なものを話し合っていくこと

が大切なのではないかと思う。

- 委員：資料を読んでいて、高齢者がこれから多くなっていく中で、どこに行きどうすれば自分が地域の人に貢献できるのかと思っている人や、自分でもできるのかなと思っても尻込みをしている人が多いと思うので、呼びかけや周知等で分かりやすく情報が入る仕組みがあれば良いと思う。1人では始めづらいこともあると思うので、我々と一緒に学ぼうといった声かけができれば良いと思う。子どもがすごく増えており、保育園もあちこちにどんどんできている。子どもと関わる高齢者が何を学んで活動していけば良いのかという情報が、普通の一般の人がお手伝いできる仕組みなどについて分かりやすく情報が手に入れば良いと思う。
- 議長：社会教育はとても範囲が広い分野なので、子どもから高齢者までどこの部分を我々は取り組んでいくのか、全部把握してということはなかなか難しいと思うので、そういう取組も1つだと思う。  
他に意見はあるか。いろいろ意見を出してもらった。前回の意見も合わせて整理し、今後の活動の中で検討、決定をしていくこととする。次回会議までに追加で出したいものがあれば、事務局まで連絡をしてください。
- 委員：今後の活動について話をしているが、見通しや展開について知りたい。
- 事務局：前回、今回と社会教育の現状や課題を考えていただく資料として配付した。テーマを絞る形でみなさんの日常的な活動の中での課題意識も踏まえながら、意見を伺うことになろうかと思う。
- 委員：我々は、学びの実現に向けてというテーマに以前から取り組んでいる。しかし実際には、実現に向けての具体的な手法について話し合っていなかった。学校支援というのはそもそもこのテーマのごく一部であり、学びの循環を実現するためにはどのような要素が必要なのかというところである。先ほど提案したリーダーを養成することだが、リーダーがしっかり養成されているところは必ずうまくいっている。だから具体的にリーダーをどう養成するのか、そういう基本的なことを話し合っていくべきだと思う。西東京市の学びの循環のための手法を考えるべきであり、もっと根本的、基本的なことを話し合ったら良いと思う。西東京市は大学との協力関係もうまくいっていると思うので、具体的事例で学びの循環の実現に向けて社会教育委員と地元の人と地元の大学とがすごく連携し、リーダーを育てながら、その養成したリーダーを派遣すれば、いろいろところで学びの循環は実現するのではないか。このような元々の話をもっとしっかりと取り組んでいくべきである。前提のところを話し合い、今後何をするのか、何が必要なのかを話し合うべきであると思う。
- 委員：大学と連携できるという環境があるのであれば、そういう場を考えていけば良いと思う。西東京市の社会教育はどうかと聞かれたときに、全国に共通するような話をしてもおもしろくない。西東京市ならではの話ができるようなモデルを1つ作った方が、今後進めやすいと思う。1つ成功例ができれば取り組みやすいと思うので、西東京市らしい場を決めて、リーダーの養成等を進められれば良いのではないかと思う。
- 議長：任期を考えると、残り半年程なので、取り組めるものを整理し、取り組んでいくことにしたい。よろしいか。
- 委員：少しよろしいか。今まで僕らがやってきた循環型地域学習社会というのは、テ

ーマとして出ただけで、実際には詰めていないという意見があり、その切口としてリーダーの養成を提案したと思う。また前回会議で、小学校18校のうち地域生涯学習を実施しているところが11校、放課後子供教室（学習活動の機会提供）を実施しているところが数校で、我々の提言以後も何も変わっていないのではないか、これはどうするのか、という話があった。そうしてみると、具体案は出ているのではないかと思う。そして、前回会議で配付された資料の中の、生涯学習についてのところに、1億総活躍社会の実現が求められており、人生を豊かにする学びに加えて実学を重視した教育の提供をなどとある。学習したことを就職などに生かすことへのニーズが高まっているので、そういうことを適切に実現していくためには、企業、学校、地域等での社会的な活動に適切に繋がるようにすることの重要性も高まっている。学習成果の活用に対する意識が高くないので、それを高めるために、今後は地域課題の解決に向けた学習をする機会が提供されることが期待されるとある。生涯学習というのは、まず市民が動いて、それを行政がバックアップするものだと思っていたので、このような形で取り組んでいるものがあるということに驚いた。広い意味での政策等に取り組んでも埒が明かないので、我々が実感している部分での話をしていかないと、うまく広がっていかないと思う。いくつか絞れると思うので、少し整理してもらってから取り組めたら良いと思う。

○委員：今まで我々は循環ということで取り組んできた。確かに社会教育行政の視点から見ると団体は育ってこないが、第4ブロック研修会では実践例ということで2団体に依頼をした。ただこれは、模範の活動ではなく、実際はそういう循環の中で活動しているが、継承問題やボランティア活動だが会費をもらっても良いものかなど、悩みがあるのが実態である。絵に描いたようにうまくいっている地域活動は無いので、それらも合わせて支援や理解が得られれば、より良い活動ができるといった話をしてもらうことが目的である。多文化共生センターはボランティア養成講座を開いたり、公民館や他の部署、学校と連携して活動しているので、ささやかに循環しているところを発表し聞いてもらうことが良いと思う。

○議長：たくさん意見をいただいた。出てきた意見等を踏まえ、次回会議で検討することとする。

### (3) その他

○議長：何かあるか。

○委員：10月13日の研修会についての感想があれば、お願いしたい。

○委員：非常に良かった。西東京市の生涯学習・教育の立ち上げから関係している方で、西東京市の事情に沿った説明が聞けた。障害者の特徴や接し方についてかなり具体的に説明されていた。実践者からの話をしてもらえたので大変勉強になった。このようなテーマについてきちんと聞いたことが無かったのもっと早くに聞きたかったと思った。健常者に対する教育にも通ずるものがあると感じた。このような機会をいただけてありがとうございますという気持ちである。

○議長：テーマは、全ての子どもの豊かな可能性を育むためにというものだった。発達障害ということで、いろいろな障害・症状を教えていただいたが、やはりその

症状によってそれぞれ子どもたちへの対応が違うので、否定的・威圧的に接するのではなく、話を聞くという気持ちで接したら良いのではないかという話をしてもらった。一般の子どもにも通ずるものがあると思った。本当に多くの子どもに関わる方々に聞いてもらえて良かったのではないかと思う。またこのような機会があれば良いと思った。放課後子供教室や地域生涯学習を各小学校で行っているが、今後、障害を持った子どもも一緒に参加できるような場作りをするために勉強をしてくださいということだった。

- 委員：これからは学校としても地域としても、対応や接し方について考えていかないといけないと思う。とても参考になる研修会だった。
- 議長：多文化共生センター主催のスピーチコンテストに参加した方、感想をお願いしたい。
- 委員：外国人の日本語スピーチコンテストに参加した。よくあれだけ日本の習慣と日本語をマスターしているなと驚いた。まるで日本人なのではと思うくらいの内容で、すごいと思った。ただ、評価の基準についてももう少しはっきりさせておくべきではと感じた。
- 委員：元々日本語の優劣を競うものではなく、この地域で暮らす中で文化の違いなど気づいたことについて話をしてくださいとしていた。また、地域性が無いという講評もあったが、ならばもっと地域の中で感じたことについて話をするようにと事前に示さないといけないと思う。
- 委員：とても感動した。最も感動したスピーチは、自分は日本語教室に通って日本語を覚えたので、今度は地域に恩返しとして、公民館を借りてスペイン語の講座を始めたという内容のもので、まさに多文化共生であると感じた。
- 議長：それでは以上で社会教育委員の会議10月定例会を終了する。

※次回会議 平成28年11月21日（月）午後2時から